

(様式1)

## 小学校の指導改善プラン (学校用)

千代田区立お茶の水小学校

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題		○成果	▲課題
	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○応用力・読むことに関する力が向上している。 ▲全体的にD層の割合が高い。特に、書くことに関する力が低い。記述力に課題が見られる。	○言葉についての知識・理解が定着している。 ▲昨年度よりD層の割合が増加。読解して短くまとめる力、記述力に課題が見られる。	○話を正確に聞き取る力、漢字の読みは割合によくできている。 ▲読解した内容をまとめたり、さらに深く考えたりする力が区の平均を下回っている。
社会	○暮らしと人々、火事から安全を守る分野はよく理解することができている。 ▲市の様子と暮らしの移り変わりに関する理解度が平均を下回っている。	○昨年度よりA層の割合が1.9%、B層の割合が3.8%増加した。 ▲知識・技能、思考・判断・表現ともに区の平均を下回っている。A層とD層の差が大きい。	○海流や地域の特徴については理解できている。 ▲グラフを正確に読み取ったり、資料を見て考察したりする力が十分に付いていない。
算数	○数の分野(あまりのあるわり算や3桁のかけ算)はよくできている。 ▲特に思考・判断・表現において区の平均を下回っている。分数の計算が全国平均を下回っている。	○数と計算の分野の理解はできている。 ▲昨年度よりC層、D層の割合が増加した。特に思考・判断・表現の領域が区の平均を下回っている。	○図形やデータの活用については理解している。 ▲基本的な計算(小数のかけ算や分数のたし算など)での誤答が多い。区の平均を下回っている。
理科	○知識・技能では区の平均を少し上回っている。 ▲応用する力が下回っている。昨年度より全体的にどの領域でも理解度が下回っている。	○知識・技能の正答率は70%を超えている。 ▲昨年度よりD層の割合が増加した。A層とD層の差が大きい。	○昨年度に比べ、思考・判断・表現の正答率が6.6%増加した。 ▲記述式の問題の平均が大きく下回っており、自分の考えを表現する力が不十分である。
授業改善の方針			
国語	「書くこと」に関する課題を克服するために、国語の授業に限らず、様々な場面で文章を書くことに慣れる学習活動を取り入れる。また、教材を読み取り、内容をもとに自分の考えを書く機会を意図的に設定し、思考・判断・表現の力を育てるようにする。		
社会	観察・資料活用の技能の領域は児童間で大きく差があり、写真使用や絵の資料について事実と考えを区別して思考したり、グラフなどの資料では、表題や変化を読み取ったりする活動を充実させる必要がある。知識については、ミライシードなどを活用しながら自身の定着度を計る活動を増やす。		
算数	数学的な思考力・表現力を育成するための指導内容や活動を具体的に示していくようにする。特に根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えることや、自分の考えを分かりやすく説明したり、お互いの考えの共通点や相違点を見付けたりする活動を充実させていく。また、コース別授業を活用し、個に応じた授業を組み立てる。		
理科	児童の学習経験、生活経験と関連付けながら科学的な事象を考える授業を展開し、学習を実生活と結び付けてとらえさせる。同時に、語句や用語は正確に理解し、使用できるように指導する。指導者が比較、関連付け、条件制御といった各学年で身に付けさせたい力を把握し、児童の既習事項等、学習の系統性を意識して指導に当たるようにする。		
音楽	生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わりながら、音楽的な見方・考え方を働かせ、感じたことや考えたことに根拠をもって表現ができるように、友達の考えと自分の考えとを比較したり共有したりしながら、自らの考えを広げたり深めたりする。また、題材のねらいに適したICT教材を活用しながら、音楽を形づくっている要素を聴き取ったりそれらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取ったりしながら、音や音楽および言葉によるコミュニケーションを図る。		
図工	ここ数年で自己決定し表現する力が身に付いてきた。しかし、既習事項や他教科で学んだ内容を活用したりする力が弱い。各題材の中で発想の方法を多方面に広げたり、多様な技能の応用を意識付けたりする学習内容を取り入れる。適宜ICTも活用した相互鑑賞の活動を取り入れ、互いの良さや違いを理解し、考えを深める手だてとする。		
家庭	実習や実践的・体験的な活動を充実させ、実感を伴って理解したり、できるようになった喜びや達成感を味わったりするなかで、知識や技能の着実な定着を図る。ペアやグループでの話し合いの場を積極的に設け、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
体育	多くの学年で投力、跳躍力に課題がみられる。そのため、「体づくり運動領域」「ゲーム領域」「ボール運動領域」において、全力でボールを投げる場面が多くなる運動を取り入れる。また、「陸上運動系領域」で、体全体を使って、高く跳んだり、遠くへ跳んだりする場を工夫する。準備運動の代わりにコーディネーショントレーニングを取り入れ、様々な体の動かし方や使い方を身に付ける。		
外国語	「外国語を使って何ができるようになるのか」という視点を大切に、児童がコミュニケーションのよさを実感できる活動を行う。児童同士のやり取りを設定し、自分の思いを伝えたり相手の話に反応したりして会話を広げる態度を身に付ける。歌やチャンツ、Small Talk等を通してたくさん英語を聞かせ、表現に十分に慣れ親しませる。		